

登録コード	T5008300	開講年度	2026			市民開放授業		
授業科目	建築設備Ⅰ(16T以降)					担当教員	高村 秀紀	
英文授業名	Building Facilities 1					副担当		
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	火曜・1時限	対象学生	建築学科3年生	
講義室	工C3-300教室			授業形態	講義	遠隔授業科目		備考
信大コンピテンシー	該当							
(1)授業の達成目標	【授業で得られる「学位授与の方針」要素】					⇔	【授業の達成目標】	
	2 5Tカリ, 2 3Tカリ							
	【22T～】共通教育による幅広い教養と、工学の専門分野における基礎学力が身についている。					⇔	空調、電気に関する建築設備の基本的な仕組みが理解できるようになり、簡単な設備計画が立案できるようになる。	
(2)授業で学べる「テーマ」	環境共生							
(3)全学横断特別教育プログラム	環境マインド実践人材養成コース							
(4)授業の概要	担当教員が高断熱・高気密住宅の工法開発、換気システム開発、温熱シミュレーションの実務経験を活かして講義を行う。 建築設備（給排水設備を除く）の基礎的な知識を習得し、省エネ設備の提案ができるようになることを目指す。							
(5)授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 建築設備の概要と地球環境 第3回 熱負荷計算の概要 第4回 熱負荷計算 第5回 空気線図の読み方、冷房時の空調機の処理プロセス 第6回 暖房時の空調機の処理プロセス 第7回 空気調和計画① 第8回 空気調和計画② 第9回 空調用熱源装置① 第10回 空調用熱源装置② 第11回 空気調和機 第12回 ダクト設備 第13回 換気・排煙設備 第14回 自動制御 第15回 まとめ 授業アンケート 第16回 定期試験							
(6)成績評価の方法	期末テストと出席状況により評価する。ただし、講義内で行う演習点を適宜加点する場合がある。 基本的に90～100点を秀、80～89点を優、70～79点を良、60～69点を可、59点以下を不可とする。 なお、原則的に期末テストを受けなければ単位は取得できない。 また、期末試験を受けるには、講義日数の3分の2以上の出席を必要とする。							
(7)成績評価の基準	授業で示した例題と同レベルの間が解ければ「水準にある」、応用問題が解ければ「やや上にある」、やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある」、例題からは難しい応用問題が解ければ「卓越している」							
(8)事前事後学習の内容	週1回の授業で2単位の授業（90時間の学修が必要） 授業時間30時間（2時間×15回）、自習学習時間60時間（4時間×15回） 講義前に毎回教科書を読むことが必要である。							
(9)履修上の注意	特になし							
(10)質問,相談への対応	講義終了後に受け付ける。							
(11)その他								
【教科書】	最新 建築設備工学 改訂2版 ISBN:9784753017652 出版社：井上書院 価格：3200円＋税							
【参考書】	徹底マスター 空気線図の読み方・使い方 ISBN：9784274102271 出版社：オーム社 価格：2,800円＋税 空気調和ハンドブック ISBN：4870711974 出版社：丸善出版 価格：4,200円＋税							